

看護の仕事

看護部長 大野 孝子

皆さん、始めまして。
今回の「市立病院だより」は看護部のことを
ご紹介したいと思います。

1. 当院看護部が目指していること

《目的》

当院は、地域における基幹病院であり、急性期医療としての役割を担っています。これからの少子高齢化社会を乗り切るため、地域全体で知恵を絞り、それぞれの役割を明確にしなが、効率的な医療福祉を提供するために多職種と協働していきます。

《理想》

「豊かな街づくり」を推進し、住民の方が、安心して住み続けることのできる地域社会作りに参加します。また、看護専門職としてやりがいのある職場環境を作り上げ、地域の発展のためにできるだけ長く、継続して働くことを目指しています。

《価値観》

私たちは、患者さんやその家族、住民の方たちのために看護の専門職として最善を尽くすことに誇りを持ちます。

2. 看護部の概要

看護職は、大きく分けて看護師と助産師に分けられます。所属人数は、現時点で常勤看護職約340名（うち助産師36名）・非常勤看護職約100名（うち看護補助員40名）が所属する大きな部署となっています。

毎年、新人が就職してきますが、今年度は

29名の看護師・助産師が新たな仲間となってくれました。

女性の多い職場というイメージが強いと思いますが、約1割が男性看護師となっています。彼らは産婦人科以外の部署で、大きな力となって働いています。

女性が多いということでは、子育て中の看護師も多く、産休や育児休暇を取りながら復職し、育児支援を受けて働き続けているスタッフも多くなりました。育児支援ということでは、女性職員だけでなく、男性職員も配偶者の出産に伴う休暇や育児休暇が取れます。現在では、妻の出産に合わせて休暇を取ることが多くなり、イクメン（育児に積極的な男性）を目指しています。

看護職の平均年齢は38歳、平均在職年数も8年と長く、ベテランの看護師が多くなっています。当院の看護師は、この地域に住み続けたいという希望を持っている者が多く、患者さんや住民の方たちのために、質の高い看護を提供することを目指し、休暇を使って研修に行く、部署で勉強会を開くなど日頃から努力を重ねながら、長く働くことを目指しています。

3. 看護の仕事内容

看護の仕事は、大きく「診療の補助」と「療養上の世話」に分けられます。



「診療の補助」では、当院は急性期を担う病院という役割上、救急医療や専門的で高度な治療に対応していかなければなりません。そのために、医師をはじめとした多職種との連携が必要となり、チーム医療の推進に力を入れています。病院は専門職の集団といわれていますが、それぞれの役割を持つ職種がうまく連携することが、良い治療結果に結びついてきます。看護の仕事は、患者さんの一番近くにおいて 24 時間見守っている存在です。常に患者さんに寄り添うことを大切にして、急性期病院の看護職としての役割を果たしています。

「療養上の世話」とは、身体を拭く・食事介助・洗面介助・排せつ介助等、生きるための基本的な行動を補助していくものです。また、退院が近くなった患者さんやご家族に対して、退院後の生活を見越した様々な指導といったことも含まれてきます。

最近では高齢の方も多くなり、退院後の生活に不安を抱えている方もいますので、地域の医療福祉関係者との連携も大きな仕事になってきています。



時には、ベッドサイドで患者さんの悩みを聞き、ご家族と共に最期のときに立会って、一緒に涙するということがあります。

看護の仕事は、患者さんと共にあり、人として成長できる貴重な仕事だと考えています。

4. 看護部のこれから

ご存知のように看護職には夜勤があります。昔からの勤務体制は3交代でしたが、最近では昼勤と夜勤に分ける2交代勤務が多くなってきました。平均すると、1ヶ月のうちで、1/3以上が夜勤となっています。

看護職にとって夜勤体制は仕事をしていく上で、継続を阻む大きな要因となっています。3交代勤務の場合は、昼間の勤務を終えてから、仮眠を取って夜中にまた出勤する・夕方から勤務を始めて夜中に帰るといったスケジュールをこなします。2交代勤務の場合は、夜勤時間が16時間連続勤務となっています。どちらにしても過酷です。夜勤のある仕事を続けるのは、自分自身が健康であることと周囲の理解とヘルプが重要です。そして、患者さんからの「ありがとう」の言葉が何よりの栄養となります。

看護部としても、働き方の選択肢を多くする・できるだけ業務のストレスを少なくする体制を作るなど、勤務条件の改善に向けた施策を考えていきたいと思っています。

私たち看護職は、常に患者さんの人権を尊重し、一人ひとりの心に届く看護を心がけています。至らないこともあるかと思いますが、お気づきの点は遠慮なく言っていただき、一緒に豊かな人生を送れるよう皆さんと協働していきたいと思っています。

これからも、当院看護部をよろしく願いいたします。